Vegetarian Research
published by JSVR・www.jsvr.jp

Article

ベジタリアン・ヴィーガン食品の国際的基準（カテゴリーや認証）と JAS 制定

垣本　充[1*]・橋本　晃一[2]・高井　明徳[3]

[1]三育学院大学・[2]大阪公立大学大学院・[3]大阪信愛学院短期大学

International Standards (Categories and Certifications) and Establishment of JAS for Vegetarian and Vegan Foods

Mitsuru Kakimoto[1], Koichi Hashimoto[2] and Akinori Takai[3]

[1]SanikuGakuin University, Japan, [2]Osaka Metropolitan University Graduate School for Life Science doctoral program, Japan, and [3]Osaka Shin-Ai College, Japan

Abstract. The history of the transition of vegetarian and vegan diets from religious-oriented basis to modern lifestyle diet, and it is international standards (categories, certifications, etc.). Current status on vegetarianism and veganism in Germany, UK and Japan. Explanation of our efforts to implement together for Japanese government's official certification label of vegetarian and vegan food products and the establishment of JAS (Japanese Agricultural Standards), which was just enacted in 2022.

Key words: vegetarian and vegan diets, history of transition, international standards, establishment of JAS

1．はじめに

ベジタリアン食やヴィーガン食の歴史は古く、紀元前から宗教や倫理を背景とした菜食が行われていた。

Vegetarian Research **Vol. 23, 1-7 (2022)**

Received 1 December 2022, Accepted 15 December 2022

*三育学院大学,　〒298-0297 千葉県夷隅郡大多喜町久我原 1500
E-mail: dr-kakimoto@jpvs.org

©2022 The Japanese Society for Vegetarian Research

宗教上の戒律から肉食を忌避する事は、紀元前7世紀ごろからインドで行われており、特にジャイナ教に肉食禁止の教義があり、それが後にヒンドゥー教の教義に取り入れられたとされている[1]。一方、仏教の教義として紀元前5世紀ごろに肉食禁止が提唱され、インドから西域、中国を経て日本に伝えられ、精進料理という形式で菜食が現存している[2]。

他方、西洋では紀元前5世紀ごろ、古代ギリシャ時代にベジタリアン食が存在しており、この西洋における菜食は古代宗教の生贄に反対する倫理的な背景を持つものである[1][2][3]。

ベジタリアン食が宗教食から生活様式の食事の一つとなるきっかけになったのは、1847年の世界最古のベジタリアン市民団体である英国ベジタリアン協会の誕生である。生命の尊厳を理念として植物性食品の他に卵や乳を摂食し、それ以外の動物性食品を摂食しない人たちを表す言葉として、ベジタリアンと言う造語が初めて誕生した[4]。 また、その協会の中で卵や乳を含めて動物性食品を一切摂食しない人たちが1944年に英国ヴィーガン協会を設立した[5]。

ベジタリアン・ヴィーガン食品や、レストラン認証を始めたのは英国ベジタリアン協会であった。ベジタリアン食がライフスタイル食として定着してきた1980年代に、ベジタリアンやヴィーガンが適切な食品やレストランを選択しやすくするためであった[4]。

ところが1990年代から2000年代初頭において、英国では食品メーカーやスーパーマーケットなどによる曖昧で不正確なベジタリアン・ヴィーガン食品認証が氾濫し、社会問題化した[6]。それを受けて、2006年に英国食品基準局が、英国ベジタリアン協会や英国ヴィーガン協会にアドバイスを求め、ガイドラインを作成した[7]。このガイドラインは、2011年にEU議会で「ベジタリアン・ヴィーガンEU規制」という合法的な位置づけが承認された[8]が、アジア、北南米など世界的な規模での認証は無く、2018年に国際基準機構(ISO)にスイスがベジタリアン・ヴィーガン食品の新たな規格を提案し、2021年3月に日本、英国、米国、ドイツ、カナダ、インド、中国等74か国が参加し、ベジタリアン・ヴィーガン食品の国際規格として ISO23662を決定した（表１）[8]。

我が国においても、国際基準に準拠した国家規格としてJAS規格（Japanese Agricultural Standards、日本農林規格）制定へ向けて検討が重ねられ、ISO 23662を参考につくられた「ベジタリアン又はヴィーガンに適した加工食品」(JAS0025)と「ベジタリアン又はヴィーガン料理を提供する飲食店等の管理方法」(JAS0026)が日本農林規格調査会の審査を経て、2022年9月6日に公示された。本稿では、今回のJAS規格制定とその経緯、背景について述べる。

表１．ベジタリアン・ヴィーガンに適した食品に関する国際基準（ISO23662）（農林水産省提供）

ベジタリアン・ヴィーガンに適した食品に関するISO最終案の基準整理表

項目		ISO/FDIS 23662 基準
適用範囲		OLV（ovo-lacto-vegetarians：卵・乳製品摂食ﾍﾞｼﾞﾀﾘｱﾝ）， OV（ovo-vegetarians：卵摂食ﾍﾞｼﾞﾀﾘｱﾝ）， LV（lacto-vegetarians：乳製品摂食ﾍﾞｼﾞﾀﾘｱﾝ）， VG（vegans：ｳﾞｨｰｶﾞﾝ）に適した食品
原材料・添加物	OLV、OV及びLVの使用できないもの	動物由来の原材料・添加物、ただし、以下のものを除く。 －動物の卵・卵加工品 (OLV、OV)　－蜂蜜・蜜蜂製品 (OLV、OV、LV) －動物の乳・乳製品 (OLV、LV)　－ラノリンを含む羊毛脂 (OLV、OV、LV)
	VGの使用できないもの	動物由来の原材料・添加物
工程 生産（生鮮） 製造・調理・包装 盛付・流通・提供	混入防止処置	適正製造規範（GMP）に適合した適切な予防処置 製造開始前の徹底的な洗浄 （基準に適合しない食品の製造ラインと共用の場合）
動物実験・動物愛護	会社及び子会社	いかなる動物実験も実施不可
	原材料等を供給する会社	いかなる動物実験も実施不可 （義務的かつ規制上の要求事項がある場合を除く）
表示	表示できる内容	"ベジタリアン"、"ヴィーガン"、又はこれに類似する意味の用語
	表示禁止事項	実際のものより著しく優良又は有利であると誤認させる用語

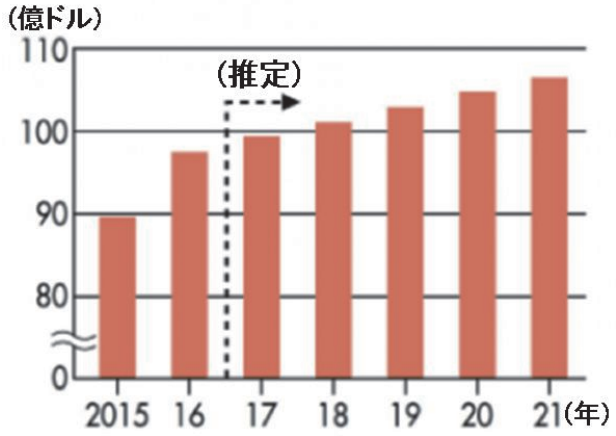
検討ISO
- ✓ FDIS投票（2020年10月30日～12月25日）の結果、FDIS承認され、2021年2月現在、国際規格として発行準備に入っている。
- ✓ FDIS投票結果：総投票数 74ヵ国（ ISO/TC34（食品専門委員会）のPメンバー(積極参加)67ヵ国、 Oメンバー(オブザーバ)7ヵ国）
  - 賛成 49ヵ国（スイス（提案国）、アメリカ、イタリア、オーストラリア、オランダ、カナダ、中国、ドイツ、フランス等）
  - 反対 1ヵ国（インド）
  - 棄権 24ヵ国（日本、イスラエル、英国、スペイン、トルコ、ニュージーランド、ノルウェー、ベルギー、ポルトガル等）

農林水産省 食料産業局 ／Food Industry Affairs Bureau. Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

表２．ベジタリアンの類型（Types of Vegetarian）

ベジタリアンの類型	食の内容
Vegan	完全菜食（植物性食品のみを摂食）
Lacto-vegetarian	乳菜食（植物性食品と乳を摂食）
Ovo-vegetarian	卵菜食（植物性食品と卵を摂食）
Lacto-ovo-vegetarian	乳卵菜食（植物性食品と乳卵を摂食）
Pesco-vegetarian	魚乳卵菜食（植物性食品と魚乳卵を摂食）
Pollo-vegetarian	鶏魚乳卵菜食（植物性食品と鶏魚乳卵を摂食）

出所：21 世紀のライフスタイル・ベジタリアニズム[3]



出所：ユーロモニター[PRESIDENT,9(2018)]

図１．世界のヴィーガン向け市場の推移（加工食品）.

２．ベジタリアン・ヴィーガン食品に関する分類

ベジタリアンやヴィーガンについては、様々な細分化された種類が報告されているが、ここでは学術的に大別された分類を表２に示す。

表２に示したとおり、ベジタリアンの学術的な分類では、ヴィーガン(完全菜食)、ラクトベジタリアン(乳菜食)、オボベジタリアン(卵菜食)、ラクトオボベジタリアン(乳卵菜食)、ペスコベジタリアン(魚乳卵菜食)及びポーヨーベジタリアン(鶏魚乳卵菜食)に分類[3]されるが、1908年創立のベジタリアン統括機関である国際ベジタリアン連合(IVU)や、英国ベジタリアン協会、国際基準機構(ISO)では、ヴィーガン、ラクトベジタリアン、オボベジタリアン及びラクトオボベジタリアンの4タイプをベジタリアンと認定しており、ペスコベジタリアン及びポーヨーベジタリアンはベジタリアンに準ずるものとして、正式なベジタリアンと認めていない[9]。

３．ベジタリアン・ヴィーガン向け食品の市場規模およびドイツ、英国、日本の現状

ユーロモニターの調査[10]によれば、ヴィーガン市場が世界中で拡大している。加工食品だけでも、ヴィーガンの市場規模は2018年に世界で100億ドル(1兆1000億円)を超えると予想されている（図１）。

続いて、ベジタリアンやヴィーガンの先進国と称されるドイツや英国、ならびに日本の現状について報告する。

ドイツ

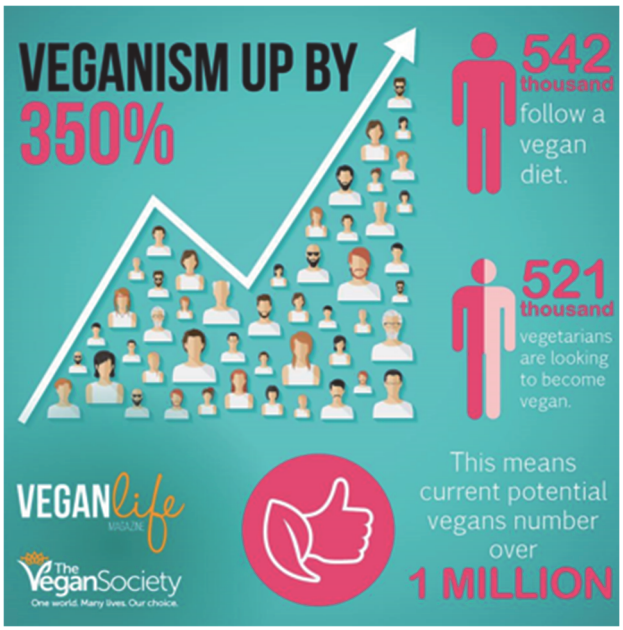
Allensbach 世論研究所（Institut für Demoskopie Allensbach）の消費者行動に関する調査によると、自身をベジタリアンと認識するドイツ人は、2019年に610万人(人口8300万人の7.3%）で2年前に比べて40万人増加[11]、2020年に650万人で前年からさらに40万人が増加した[12]。

また、連邦食料・農業省の2020年栄養レポートによると、調査回答者のうち5%がベジタリアンなのに対し、1%がヴィーガンで、55%がフレキシタリアンだという[13]。フレキシタリアンは、基本的にはベジタリアンであるが、たまに魚や鶏肉、畜肉も食することがあり、広義のベジタリアンとして位置づけることができる。

国際的なベジタリアン NGO の ProVeg によると、2017年から2018年にかけて、ドイツ国内ではヴィーガンやベジタリアン向けの食品の売り上げは9億6,000 万ユーロだった。これは前年の同時期に比べて30%の売上増である。ディスカウント店は、こうした製品の年間売上高を3分の1以上伸ばし、伝統的な食品小売業はベジタリアン製品で23%の売上増加を記録した [14]。

2000年初頭までは、植物性の代替肉とソーセージ代替品は一部の有機食品店のみで販売されていたが、現在ではすべてのスーパーマーケットが取り扱う商品となっている。

ProVeg のデータによると、代替肉は2008年以降2015年までは毎年着実に約30%売り上げを伸ばしており、2015年にはドイツにおけるヴィーガン／ベジタリアン向けのソーセージ代替品と代替肉の売り上げは1億5,000万ユーロに達した [15]。



出所：英国ヴィーガン協会[5]

図２．英国のベジタリアンとヴィーガン人口の推移 (2006～2015 年)

英国

2020 年4 月に各種製品比較情報サイト Finder が行った調査によると、英国の人口の87%が肉を摂食しているものの、ベジタリアン（人口の約7%）を中心に、約670 万人の英国成人が肉を摂食しない食生活を行っている[16]。

上述の Finder の調査によると、ミレニアル世代（1981 年以降に生まれ、2000年以降に成人を迎える）は最も肉を摂食せず、その比率は同世代の15%に及ぶ。一方、2021 年までに Z 世代（1996年から2012年の間に出生）の35%、ミレニアル世代の32%が肉の摂食を断ち、Z 世代がミレニアル世代を追い抜くとされている[16]。その理由の一つとして、国連報告書[17]にあるように菜食の地球温暖化防止効果など環境保全をライフスタイルに取り入れていることが考えられる。

一方、ヴィーガン人口に関して2006～2015年の10年間で3.5倍に増え、約54万人に達したと英国ヴィーガン協会が調査結果を公表した（図２）[18]。

Mintel 調査 によると、2014年から2019年にかけて英国のヴィーガン人口が4 倍になったこともあり、どの国よりも多くのヴィーガン製品が2019年に発売され、同年に英国で新しく発売された食品の4分の1 近くがヴィーガンと表示されていたと分析している[19]。

英国の畜肉を含まない食品（ミートフリー）市場は、ベジタリアンとヴィーガンからの需要の増加に牽引されて指数関数的に成長する見通しである[20]。

2000年に、英国ヴィーガン協会商業政策担当 のルイジアナ・ワーリング氏にジェトロがヒアリングを行ったところ、英国の代替肉市場は2019年に4億8,920万ドルとなり、2020年から2025年の間に6.8%の年平均成長率で伸び、2025年には7億2,680万ドルに達する見込みだという。さらにワーリング氏によると、英国には植物性ミルク（豆乳など）の強力な市場があり、2019年の市場規模は3億2,060万ドルで、欧州全体の市場の約15%を占めている。この市場規模は2025年までに2倍以上の7億530万ドルに達し、2020年から2025年の年平均成長率は13.8%と予測されている[21]。

大手スーパーマーケットと大手食品メーカーも、ヴィーガン向けに多くの選択肢を提供している。スーパーマーケットのウェイトローズは、ヴィーガン又はベジタリアン向けの製品群を60%拡大し、130超の店舗でヴィーガン専用のコーナーを立ち上げた。また、同じくスーパーマーケットのセインズベリーズのヴィーガンチーズの売り上げは、同社の予測の4 倍となった[21]。

日本

我が国では、ベジタリアン人口調査は高井らによる2003年の近畿地区の男女大学生533名を対象にした調査研究に基づくと、ヴィーガンタイプが0.2%、広義のベジタリアンと言えるフレキシタリアン(前述：ドイツの項)が9.2%であった[22]。2017年に橋本らが行った京阪神・首都圏の大学生126名を対象にした同一手法で行った調査によれば、ヴィーガンタイプに関しては4.0%、フレキシタリアンは20.6%であった。これを14年前の2003年の結果と比べるとヴィーガンタイプは20倍に、フレキシタリアンの比率は2.2倍となり、我が国でもヴィーガンの増加とともに、比較的穏やかなベジタリアンライクであるフレキシタリアンも増加の傾向を示した[23]。

また、Vegewel（ベジタリアン・ヴィーガン等向けレストラン検索、オンラインショッピングサイト）を運営する㈱フレンバシーが、外部機関の一般モニターにより、2017年と2019年にそれぞれ約2400名を対象に実施した Web アンケート調査「日本のベジタリアン・ヴィーガン・フレキシタリアン人口調査」(資料) [24]によ

れば、意識的に動物食品を減らす人の割合は、2017年の15.8%に対し、2019年は19.8%を示し、2年間で4%増加した。

一般的に、ベジタリアン・ヴィーガン食品の動向調査として用いられるものの一つに、植物肉の生産に用いられる粒状大豆タンパク質の生産量がある。

粒状タンパク質の国内生産量は、2010年の23,560トンから2019年に33,297トンになり、10年間で約41%成長した。これをもとに今後を予測するならば、2028年の生産量は、約43,000トンとなり、新たな食品市場への成長が期待される[25]。

4．ベジタリアン・ヴィーガン食品等 JAS 制定の目的と経緯

2018年12月4日に松原仁議員から衆議院に提出された、「インバウンドに対応したベジタリアン/ヴィーガン対策に関する質問主意書」[26] には、トラベルジャーナル誌 [27] によれば、『2017年度の訪日観光客約2千869万人のうち、約130万人がベジタリアンであり、訪日客から「ベジ対応の店やメニューが圧倒的に少ない」等の不満が多数寄せられており、さらに、食の面でのインバウンド対応と関連して、消費する側の利便性と安全を確保するため、ベジタリアン・ヴィーガン等についての「認証制度」を整備しつつ、コンタミ（contamination コンタミナネーション：汚染物質の混入）やアレルギー事故、認識の混乱、認証の乱立などを防ぐ必要もあると考える。』と記されている。

これを受けて、2019年11月に河村建夫元官房長官や松原仁衆議院議員が中心となり、超党派の「ベジタリアン/ヴィーガン関連制度推進のための議員連盟」（ベジ議連：会長　河村議員、事務局長　松原議員）が発足し、同年12月に第2回総会、2019年4月に第3回総会、同年11月の第4回総会、2021年の2月の第5回総会、同年5月に第6回総会、同年12月に第7回総会が開催された。

ベジ議連第5回総会時に農林水産省(大臣官房新事業)食品産業部食品製造課基準認証室長から「JAS の策定プロセスについて」の説明があった。ベジ議連関係の民間団体である認定 NPO 法人日本ベジタリアン協会代表の垣本充が、農林水産省ベジタリアン又はヴィーガンに適した食品等 JAS 制定プロジェクトチーム(PT)座長となり、PT メンバーの編成や JAS 規格案の検討を行った。PT メンバーは、学識経験者、食品会社、市民団体、レストラン、スーパーマーケット、コンビニや、有機 JAS 認証団体、東京都、農林水産省などで構成された。

PT 会議は、2021年5月から2022年1月までに計5回開催され、2021年3月にベジタリアン・ヴィーガン食品の国際規格として決定された ISO 23662を参考として、申出のための JAS 規格原案を検討し、2022年3月15日、農水省基準認証室へ「ベジタリアン又はヴィーガンに適した加工食品」(JAS0025)と「ベジタリアン又はヴィーガン料理を提供する飲食店等の管理方法」(JAS0026)の JAS 規格2案の申出(関係書類一式の提出)を行った。その後、通商弘報・パブリックコメントを経て、同年6月29日に開催された日本農林規格調査会の審査に合格し、同年9月6日に農水省官報に公示され、同省ホームページにも掲載された。

5. まとめ

ベジタリアン食やヴィーガン食の起源は紀元前7～5世紀のインドやギリシャとされているが、これらの菜食が宗教食からライフスタイル食へと変遷したきっかけは、19世紀半ば「生命の尊厳を理念として植物性食品の他に卵や乳を摂食し、それ以外の動物性食品を摂食しない生活様式」を提言し設立された英国ベジタリアン協会の誕生である。その後、20世紀後半にその協会の中から「卵や乳を含めて動物性食品を一切摂食しない生活様式」を提言する人たちが英国ヴィーガン協会を設立し、宗教を超えた菜食（ベジタリアン食、ヴィーガン食）がライフスタイル食として定着してきた。

英国ベジタリアン協会やヴィーガン協会は市民団体として、ベジタリアン食やヴィーガン食のガイドラインを作成してきたが、1990年代から2000年代初頭において、英国では食品メーカーやスーパーマーケットなどによる曖昧で不正確なベジタリアン・ヴィーガン食品認証が氾濫し、社会問題化した。それを受けて、2006年に英国食品基準局が、英国ベジタリアン協会や英国ヴィーガン協会にアドバイスを求め、ガイドラインを作成した。

英国と同様な現象が現在の日本国で起こっていて、曖昧で不正確なベジタリアン・ヴィーガン食品の民間認証が見られるようになってきた。

そのような国際的な信用を落としかねない現象に問題を感じた「ベジ議連」の動きから、民間発意によるベジタリアン・ヴィーガン加工食品 JAS (JAS0025)とベ

ジタリアン・ヴィーガンレストラン・ケータリング JAS (JAS0026)の制定が行われた。

現在、我が国で頻繁に見掛けるベジタリアン・ヴィーガン食品の民間認証の問題点は、国際基準の第三者認証に該当しないことである。第三者(審査)認証とは ISO や JAS のような組織外の第三者により審査され、認証を受ける制度[28]であるが、この規格は審査・認証を行う認証機関と、その認証機関の審査の力量を精査する別の認定機関が存在する。これにより、利害関係のない第三者による公正かつ公平な審査が実現する。このような民間認証はアンケート調査だけで認証するものがあり、信頼性に欠ける。

このベジタリアン・ヴィーガン食品等 JAS は ISO23662を参考として検討されたもので、国際的に評価されるベジタリアン・ヴィーガン向け食品の輸出を推進することが期待される。また、JAS 認証によってベジタリアン又はヴィーガンに適した食品を求める消費者の適切な商品選択を可能とする。時代の要請に応えて消費者の視点に立ったベジタリアン・ヴィーガン食品等の国による公的な認証は非常に意義深いものと著者らは考える。

文 献

[1] 末次勲：菜食主義. 丸の内出版 (1983)

[2] 垣本充 : ベジタリアン概説. Veg Res l, 3-10 (2000)

[3] 垣本充：ベジタリアン総論. 21世紀のライフスタイル・ベジタリアニズム(垣本充監修), ㈱フードジャーナル社, pp 14-23 (2014)

[4] 英国ベジタリアン協会 : https://vegsoc.org/ (2022)

[5] 英国ヴィーガン協会：https://www.vegansociety.com/ (2022)

[6] 英国ベジタリアン協会：The Vegetarian Society Approved trademarks. https://vegsoc.org/vegetarian-and-vegan-trademarks-2/ (2006)

[7] Food Ingredients 1st：FSA publishes guidance on vegetarian and vegan labelling. https://www.foodingredientsfirst.com/news/fsa-publishes-guidance-on-vegetarian-and-vegan-labelling.html (2006)

[8] FOOD navigator.com：EU to set legal definition of vegetarian and vegan food. https://www.foodnavigator.com/Article/2017/11/03/EU-to-set-legal-definition-of-vegetarian-and-vegan-food (2017)

[9] ISO 23662:2021 Definitions and technical criteria for foods and food ingredients suitable for vegetarians or vegans and for labelling and claims. https://committee.iso.org/standard/76574.html?browse=tc (2021)

[10] Idea-Spoon :「ヴィーガン」は日本国内でも一大市場へとなり得るのか. https://www.idea-spoon.jp/803.html (2020)

[11] アレンスバッハ世論研究所 (Institut für Demoskopie Allensbach)：2019年消費者行動に関する調査. https://www.ifdallensbach.de/fileadmin/AWA/AWA2019/Codebuchausschnitte/AWA2019_Codebuch_Essen_und_Trinken.pdf (2019)

[12] アレンスバッハ世論研究所 (Institut für Demoskopie Allensbach)：2020年消費者行動に関する調査. https://www.ifd-allensbach.de/awa/arbeiten-mit-der-awa/bestellung.html (2020)

[13] ドイツ連邦食料・農業省：2020年栄養レポート, https://www.bmel.de/SharedDocs/Downloads/DE/Broschueren/ernaehrungsreport2020.pdf?blo b=publicationFile&v=16 (2020)

[14] Proveg：ヴィーガン・ベジタリアン食品年間売上高. https://proveg.com/de/pflanzlicher-lebensstil/vegan-trend-zahlen-und-fakten-zum-veggiemarkt/ (2018)

[15] Proveg：代替肉年間売上高. ttps://proveg.com/de/pflanzlicher-lebensstil/vegan-trend-zahlen-und-fakten-zum-veggiemarkt/ (2015)

[16] Finder：How many vegetarians and vegans are in the UK? https://www.finder.com/uk/uk-diet-trends?_ga=2.159763325.1980977180.1566535152-%202100258465.1565068082 (2022)

[17] UNEP：Promoting plant-rich diets for resilient food systems and planetary and human health. https://proveg.com/wp-content/uploads/2020/06/Open-Letter-to-UNEP-04.06.2020.pdf (2020)

[18] Vegan Life：Veganism Booms by 350%. https://www.veganlifemag.com/veganism-booms/?fbclid=IwAR2Cuac9u5yebvMQPbkDaWwK3zV1SgyZjvy9o1tWUHKqzpY9qxw7w7x_MG4 (2015)
[19] Mintel：ヴィーガン人口調査の推移. https://www.theguardian.com/food/2020/jan/17/almost-one-in-four-food-productslaunched-in-uk-in-2019-labelled-vegan (2020)
[20] Truly：Veganism Statistics 2022 – How Many Vegans Are There In The UK? https://trulyexperiences.com/blog/veganism-uk-statistics/ (2022)
[21] 日本貿易振興機構：ベジタリアン、ヴィーガン市場に関する調査（英国、フランス、ドイツ）(2019)
[22] 高井明徳・山中博之・三戸秀樹・垣本充：動物性食品摂取状況に基づくベジタリアン調査－I.近畿地区大学生における調査結果－. Veg Res 4, 17-22 (2003)
[23] 橋本晃一ら：動物性食品摂取状況に基づくベジタリアン調査(2). 日本ベジタリアン学会第17回大会発表要旨（2017）
[24] Vegwel：日本のベジタリアン・ヴィーガン・フレキシタリアン人口調査. https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000044.000016326.html (2019)
[25] 農林水産省：粒状タンパク生産量調査結果, https://www.maff.go.jp/j/jas/attach/pdf/yosan-27.pdf (2019)
[26] 松原仁：インバウンドに対応したベジタリアン/ヴィーガン対策に関する質問主意書（2018）
[27] 日本政府観光局：2017年訪日外国人旅行者数. https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/data_info_listing/pdf/180116_monthly.pdf (2018)
[28] ISO プロ：第3者審査認証. https://activation-service.jp/iso/terms/1535 (2020)

Vegetarian Research Vol. 23, 1-7 (2022)

ベジタリアン・ヴィーガン食品の国際的基準（カテゴリーや認証）と JAS 制定

垣本　充[1*]・橋本　晃一[2]・高井　明徳[3]

ベジタリアン・ヴィーガン食の宗教食からライフスタイル食への変遷の歴史とその国際基準(カテゴリー、認証)、ドイツ、英国、日本のベジタリアンとヴィーガンの現状。2022年に制定された日本政府によるベジタリアン・ヴィーガン食品の公的な認証・JAS 制定の経緯について解説した。

キーワード：ベジタリアン・ヴィーガン食・変遷の歴史・国際的基準・JAS 制定

[1]三育学院大学　〒298-0297 千葉県夷隅郡大多喜町久我原1500
[2]大阪公立大学大学院生活科学研究科　博士後期課程、〒558-8585　大阪市住吉区杉本3-3-138
[3]大阪信愛学院短期大学　〒538-0053 大阪市鶴見区鶴見6-2-28